

令和7年度

築上町水道事業会計決算審査意見書

築上町監査委員

目 次

第1 審査の概要	1
1 審査の対象	1
2 審査の期間	1
3 審査の方法	1
第2 審査の結果	1
第3 決算の概況	2
1 業務実績	2
(1) 業務の状況	2
(2) 年間総配水量、年間有収水量及び有収率	3
(3) 事業の状況	3
2 予算の執行状況	4
(1) 収益的収入及び支出	4
(2) 資本的収入及び支出	5
3 経営成績	6
(1) 収益	7
(2) 費用	7
(3) 供給単価と給水原価	7
4 財政状況	8
(1) 資産	8
(2) 負債及び資本	8
5 キャッシュ・フロー計算書	9
第4 むすび	10
1 決算の概要	10
2 意見	10

令和7年度築上町水道事業会計決算審査意見

第1 審査の概要

1 審査の対象

令和7年度築上町水道事業会計決算

2 審査の期間

令和8年5月25日から令和8年8月14日まで

3 審査の方法

審査にあたっては、決算書、附属関係書類、財務諸表等の計数が正確であるか審査した。また、事業の経営が適正に行われているか、関係職員から内容を聴取し審査した。

第2 審査の結果

決算書、附属関係書類は、いずれも地方公営企業法及びその他関係法令に準拠して作成されており、その計数及び会計記録は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示していると認められた。事務の執行等については、概ね適正であった。

第3 決算の概況

1 業務実績

(1)業務の状況

当年度の業務の状況は、次表のとおりである。

区 分		単位	令和7年度	令和6年度	対前年度比較		備 考 (令和8年3月31日現在)
					増減	増減率	
行政区域内人口		人	15,806	16,219	△ 413	△ 2.55	住民基本台帳上の人口
計画給水人口		人	14,900	14,900	0	0.00	
給水人口		人	11,204	11,442	△ 238	△ 2.08	
普及率	行政区域内人口	%	70.88	70.55	0.33	0.47	給水人口/行政区域内人口×100
	計画給水人口	%	75.19	76.79	△ 1.60	△ 2.08	給水人口/計画給水人口×100
給水件数		件	5,239	5,468	△ 229	△ 4.19	
年間総配水量		m ³	1,505,338	1,516,747	△ 11,409	△ 0.75	
年間有収水量		m ³	1,214,689	1,222,302	△ 7,613	△ 0.62	年間総配水量のうち、料金収入が得られた水量
有収率		%	80.69	80.59	0.10	0.12	年間有収水量/年間総配水量×100
施設利用率		%	68.94	69.46	△ 0.52	△ 0.75	一日平均配水量/配水施設能力×100
最大稼働率		%	69.04	74.82	△ 5.78	△ 7.73	一日最大配水量/配水施設能力×100
配水施設能力		m ³ /日	5,982	5,982	0	0.00	
一日最大配水量		m ³	4,130	4,476	△ 346	△ 7.73	
一日平均配水量		m ³	4,124	4,155	△ 31	△ 0.75	
一日平均給水量		m ³	3,328	3,349	△ 21	△ 0.63	一日平均有収水量
職員数		人	9	9	0	0.00	上下水道課職員数

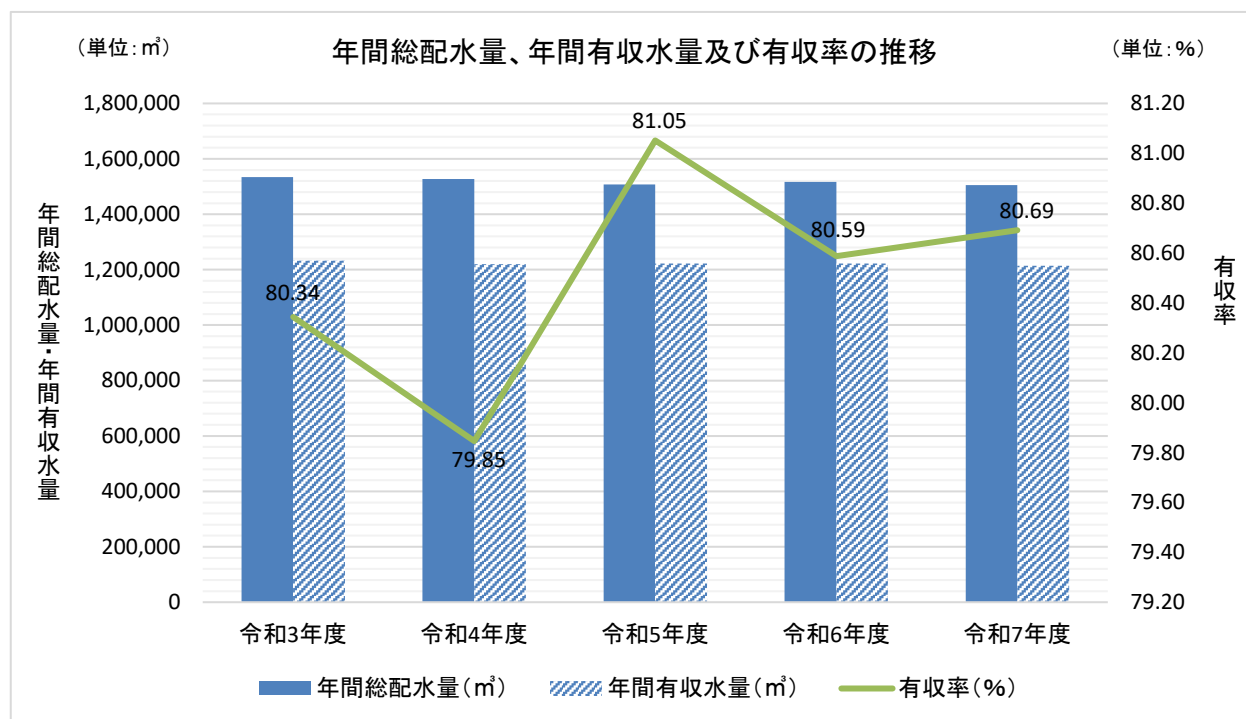
当年度末の給水人口は11,204人で、前年度と比較すると238人(△2.08%)減少している。行政区域内人口に対する普及率は70.88%で、前年度と比較すると0.33ポイント(0.47%)増加している。給水件数は5,239件で、前年度と比較すると229件(△4.19%)減少している。

年間総配水量は1,505,338m³で、前年度と比較すると11,409m³(△0.75%)減少し、年間有収水量も1,214,689m³で、前年度と比較すると7,613m³(△0.62%)減少している。また、有収率は80.69%で、昨年度と比較すると0.10ポイント(0.12%)増加となっている。

(2)年間総配水量、年間有収水量及び有収率

年間総配水量、年間有収水量及び有収率の推移は、次表のとおりである。

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間総配水量(㎥)	1,534,058	1,527,350	1,507,747	1,516,747	1,505,338
年間有収水量(㎥)	1,232,517	1,219,530	1,222,052	1,222,302	1,214,689
有収率(%)	80.34	79.85	81.05	80.59	80.69



(3)事業の状況

水道管布設工事として、椎田勝山線水道管布設工事(3工区)を14,586,000円で施工し、303.12mの管布設を行っている。

第3浄水場において、1,538,900円でNo.1送水ポンプを1台更新している。また、高塚浄水場においても、3,960,000円で薬注設備のセンサーやコントローラー等を更新するなど、水道諸施設の維持保全に務めている。

2 予算の執行状況(消費税込み)

(1) 収益的収入及び支出

ア 収益的収入

収益的収入は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	予算額	決算額	収入率	前年度決算額	対前年度比	
					増減額	増減率
営業収益	334,678,000	342,253,500	102.26	340,666,981	1,586,519	0.47
営業外収益	101,993,000	102,044,519	100.05	95,454,246	6,590,273	6.90
特別利益	4,000	0	0.00	4,366,179	△ 4,366,179	△ 100.00
合 計	436,675,000	444,298,019	101.75	440,487,406	3,810,613	0.87

収益的収入は、予算額436,675,000円に対し、決算額444,298,019円で、収入率は101.75%であった。

決算額を前年度と比較すると、3,810,613円(0.87%)増加している。これは、長期前受金戻入が2,872,107円(△5.37%)、雑収益が2,738,620円(△99.78%)、特別利益が4,366,179円(△100.00%)それぞれ減少したが、他会計補助金が12,201,000円(31.13%)増加したためである。

イ 収益的支出

収益的支出は、次のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	予算額	決算額	執行率	前年度決算額	対前年度比	
					増減額	増減率
営業費用	424,981,000	393,544,607	92.60	380,365,021	13,179,586	3.46
営業外費用	24,153,000	19,307,485	79.94	18,728,712	578,773	3.09
特別損失	221,000	0	0.00	59,245	△ 59,245	△ 100.00
予備費	4,409,000	0	0.00	0	0	0.00
合 計	453,764,000	412,852,092	90.98	399,152,978	13,699,114	3.43

収益的支出は、予算額453,764,000円に対し、決算額412,852,092円で、執行率は90.98%であった。

決算額を前年度と比較すると、13,699,114円(3.43%)増加している。これは、減価償却費は8,106,254円(△6.09%)減少したが、原水浄水費が23,037,501円(13.93%)増加したためである。

(2) 資本的収入及び支出

ア 資本的収入

資本的収入は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	予算額	決算額	収入率	前年度決算額	対前年度比	
					増減額	増減率
企業債	31,000,000	13,500,000	43.55	42,000,000	△ 28,500,000	△ 67.86
出資金	24,925,000	24,925,000	100.00	30,034,000	△ 5,109,000	△ 17.01
負担金	1,000	0	0.00	0	0	0.00
固定資産 売却代金	1,000	0	0.00	0	0	0.00
合 計	55,927,000	38,425,000	68.71	72,034,000	△ 33,609,000	△ 46.66

資本的収入は、予算額55,927,000円に対し、決算額38,425,000円で、収入率は68.71%であった。

決算額を前年度と比較すると、33,609,000円(△46.66%)減少している。これは、主に建設改良企業債が28,500,000円(△67.86%)減少したためである。

イ 資本的支出

資本的支出は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	予算額	決算額	執行率	前年度決算額	対前年度比	
					増減額	増減率
建設改良費	59,283,000	23,103,300	38.97	49,491,200	△ 26,387,900	△ 53.32
企業債償還金	69,825,000	69,824,663	100.00	78,095,484	△ 8,270,821	△ 10.59
予備費	5,000,000	0	0.00	0	0	0.00
合 計	134,108,000	92,927,963	69.29	127,586,684	△ 34,658,721	△ 27.16

資本的支出は、予算額134,108,000円に対し、決算額92,927,963円で、執行率は69.29%であった。

決算額を前年度と比較すると、34,658,721円(△27.16%)減少している。これは、主に配水設備費が31,886,800円(△64.43%)減少したためである。

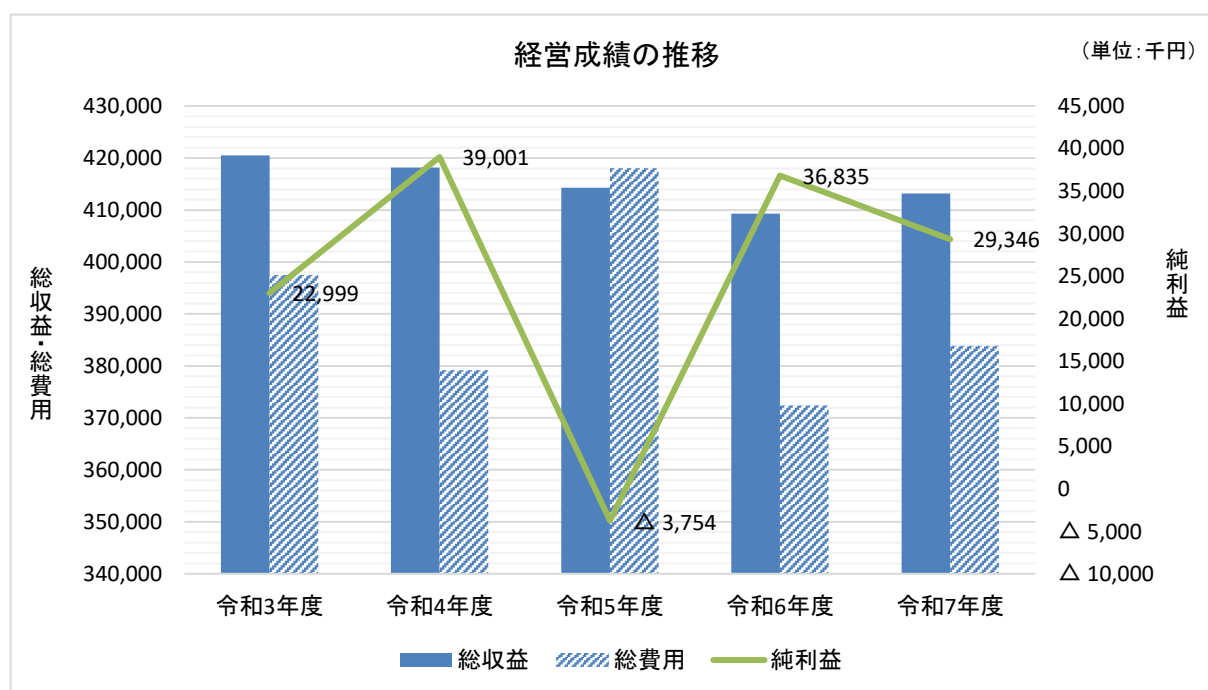
3 経営成績(損益計算書)(消費税抜き)

経営成績は、次表のとおりである。

(単位:円)

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
総収益	420,488,795	418,155,413	414,306,131	409,265,868	413,198,134
総費用	397,490,197	379,154,249	418,060,297	372,430,640	383,852,507
純利益	22,998,598	39,001,164	△ 3,754,166	36,835,228	29,345,627

当年度の総収益は413,198,134円、総費用は383,852,507円、差引した純利益は29,345,627円である。前年度と比較すると、7,489,601円(△20.33%)減少している。



(1)収益

収益は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	令和7年度	令和6年度	対前年度比較	
			増減	増減率
営業収益	311,154,000	309,715,710	1,438,290	0.46
営業外収益	102,044,134	95,392,125	6,652,009	6.97
特別利益	0	4,158,033	△ 4,158,033	△ 100.00
総収益	413,198,134	409,265,868	3,932,266	0.96

総収益を前年度と比較すると、3,932,266円(0.96%)増加している。これは、過年度損益修正益が4,158,033円(△100.00%)減少したが、給水装置設置工事に係る加入金が2,370,000円(73.6%)、一般会計補助金が12,201,000円(31.13%)それぞれ増加したためである。

(2)費用

費用は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	令和7年度	令和6年度	対前年度比較	
			増減	増減率
営業費用	372,770,733	360,880,027	11,890,706	3.29
営業外費用	11,081,774	11,496,753	△ 414,979	△ 3.61
特別損失	0	53,860	△ 53,860	△ 100.00
総費用	383,852,507	372,430,640	11,421,867	3.07

総費用を前年度と比較すると、11,421,867円(3.07%)増加している。これは、減価償却費が8,106,254円(△6.09%)、企業債の利息が1,055,927円(△11.60%)減少したが、原水浄水費(主に、修繕料と受水費)が21,005,010円(13.96%)増加したためである。

(3)供給単価と給水原価

有収水量1㎡あたりの供給単価と、給水原価の推移は次表のとおりである。

(単位:円)

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
供給単価	250.0	252.0	250.0	250.6	251.4
給水原価	322.5	310.9	298.0	260.9	274.3
販売損益	△ 72.5	△ 58.9	△ 48.0	△ 10.3	△ 22.9

※給水単価 = 給水収益÷有収水量

※給水原価 =
$$\frac{\text{経常費用} - \text{長期前受金戻入} - \text{受託工事費}}{\text{有収水量}}$$

有収水量1㎡あたりの供給単価は251.4円(前年度より0.8円増加)、給水原価は274.3円(前年度より13.4円増加)であるため、販売損益は1㎡あたり22.9円の赤字(前年度は10.3円の赤字)となっている。

4 財政状況(消費税抜き)

(1) 資産

資産の状況は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	令和7年度	令和6年度	対前年度比較	
			増減	増減率
固定資産	2,690,314,839	2,794,410,228	△ 104,095,389	△ 3.73
流動資産	739,877,665	714,437,020	25,440,645	3.56
資産合計	3,430,192,504	3,508,847,248	△ 78,654,744	△ 2.24

資産額を前年度と比較すると78,654,744円(△2.24%)減少している。これは、流動資産である現金預金は25,323,637円(3.81%)増加したが、固定資産の構築物が94,892,240円(△3.95%)減少したためである。

(2) 負債及び資本

負債及び資本の状況は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	令和7年度	令和6年度	対前年度比較	
			増減	増減率
固定負債	845,543,732	891,771,385	△ 46,227,653	△ 5.18
流動負債	82,556,617	118,611,796	△ 36,055,179	△ 30.40
繰延収益	926,763,101	977,405,640	△ 50,642,539	△ 5.18
負債合計	1,854,863,450	1,987,788,821	△ 132,925,371	△ 6.69
資本金	330,374,838	305,449,838	24,925,000	8.16
剰余金	1,244,954,216	1,215,608,589	29,345,627	2.41
資本合計	1,575,329,054	1,521,058,427	54,270,627	3.57
負債及び資本合計	3,430,192,504	3,508,847,248	△ 78,654,744	△ 2.24

負債額を前年度と比較すると132,925,371円(△6.69%)減少している。資本額を前年度と比較すると54,270,627円(3.57%)増加している。

負債及び資本の総額は3,430,192,504円で、前年度と比較すると78,654,744円(△2.24%)減少している。

5 キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間における現金預金の収支の状況を、業務活動、投資活動、財務活動に分けて表示した報告書です。現金預金の収支の状況は、次のとおりである。

(単位:円)

区 分	令和7年度	令和6年度	対前年度比増減額
業務活動によるキャッシュ・フロー	77,726,300	161,026,322	△ 83,300,022
当年度純利益	29,345,627	36,835,228	△ 7,489,601
減価償却費	124,912,664	133,018,918	△ 8,106,254
固定資産除却費	185,725	0	185,725
引当金の増減額	153,000	131,256	21,744
貸倒引当金の増減額	300,000	300,000	0
長期前受金戻入額	△ 50,642,539	△ 53,514,646	2,872,107
支払利息	8,047,485	9,103,412	△ 1,055,927
未収金の増減額(△は増加)	△ 417,008	7,788,580	△ 8,205,588
未払金の増減額(△は減少)	△ 26,110,069	36,363,995	△ 62,474,064
預り金の増減額(△は増加)	△ 1,100	102,991	△ 104,091
小 計	85,773,785	170,129,734	△ 84,355,949
利息の支払額	△ 8,047,485	△ 9,103,412	1,055,927
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,922,000	△ 14,958,000	18,880,000
有形固定資産の取得による支出	△ 15,611,181	△ 893,000	△ 14,718,181
固定資産の取得による前払金の支出	△ 5,391,819	△ 15,507,273	10,115,454
固定資産の取得による未払金計上	0	△ 28,591,727	28,591,727
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	24,925,000	30,034,000	△ 5,109,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 56,324,663	△ 36,095,484	△ 20,229,179
建設改良等の財源に充てるための企業債による収入	13,500,000	42,000,000	△ 28,500,000
建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 69,824,663	△ 78,095,484	8,270,821
資金の増加額	25,323,637	109,972,838	△ 84,649,201
資金期首残高	664,157,416	554,184,578	109,972,838
資金期末残高	689,481,053	664,157,416	25,323,637

業務活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費や未払金の減少、未収金の増加等により、前年度と比較すると83,300,022円減少し、77,726,300円となった。

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による前払金支出の減少や未払金計上がなかったこと等により、前年度と比較すると18,880,000円増加し、3,922,000円となった。

財務活動によるキャッシュ・フローは、企業債の償還による支出に比べ企業債による収入が少なかったため、前年度と比較すると20,229,179円減少し、△56,324,663円となった。

その結果、資金期末残高は689,481,053円となり、資金期首残高と比較すると25,323,637円増加となった。

第4 むすび

1 決算の概要

令和7年度水道事業会計の業務状況は、給水件数は5,239件で前年度と比較すると229件(△4.19%)減少、給水人口は11,204人で前年度と比較すると238人(△2.08%)減少している。これは、人口減少によるものと考えられる。

年間総配水量は1,505,338㎥で前年度と比較すると11,409㎥(△0.75%)減少し、年間有収水量は1,214,689㎥で前年度と比較すると7,613㎥(△0.62%)減少している。

有収率は80.69%で前年度と比較すると0.10ポイント上昇している。

予算の執行状況について、収益的収支における決算額は、収入4億4,429万8,019円、支出4億1,285万2,092円で、前年度と比較すると、収入が381万613円(0.87%)、支出が1,369万9,114円(3.43%)それぞれ増加している。収益的収支差引は3,144万5,927円となっている。

また、資本的収支における決算額は、収入3,842万5,000円、支出9,292万7,963円で、前年度と比較すると、収入が3,360万9,000円(△46.66%)、支出が3,465万8,721円(△27.16%)それぞれ減少している。資本的収支差引は△5,450万2,963円で、不足額については、消費税及び地方消費税資本的収支調整額210万300円と過年度分損益勘定留保資金5,240万2,663円で補填している。資本的支出としては、椎田勝山線水道管布設工事を施工し、1,458万6,000円を執行している。

経営成績について、総収益は4億1,319万8,134円、総費用は3億8,385万2,507円、純利益は2,934万5,627円を計上している。純利益は前年度と比較すると748万9,601円(△20.33%)減少している。

有収水量の販売損益は1㎥あたり22.9円の赤字(前年度は10.3円の赤字)である。

現金預金の収支の状況(キャッシュ・フロー計算書)は、業務活動により7,772万6,300円、投資活動により392万2,000円それぞれ資金を増加させ、財務活動により5,632万4,663円の資金を費消したことで、資金は2,532万3,637円増加し、資金期末残高は6億8,948万1,053円となっている。

2 意見

令和7年度は、人口減少等により、給水人口及び年間総配水量が減少している。これにより有収水量も減少し、主な収入源である給水収益も減少している。有収率は80%前後を維持している状況で、全国平均の90%を下回っており、有収率を向上させる対策に取り組んでいただきたい。

今後は、給水人口の減少に伴う給水収益の減少、施設や管路の老朽化や耐震化に係る更新費用の増加が見込まれる。令和8年第2回議会定例会で報告があった「築上町水道事業経営戦略」に基づき、中長期的な視点に立ち、料金体系の見直し、施設の再編や更新について検討を重ねていただきたい。

令和8年熊本地震では、長期にわたる断水が被災住民の生活や災害復旧に大きな影響を及ぼしており、水道施設等の強靱化の重要性が改めて認識されている。本町においても、上下水道課職員が災害復旧支援を通じて得た知見や経験を今後の危機管理や災害対応に生かし、住民生活及び社会経済活動を支えるライフラインとして、安全で安心な水の安定供給に努められたい。